

外国人住民のための 防災ハンドブック



公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団

はじめに

世界の中でも日本は自然災害がとて多いところす。とて強い雨や風、地震などで、大きな被害が出ています。このハンドブックには、あなたとあなたの大切な家族を災害から守るための、重要なことが書いてあります。

特に、3つの災害（風水害、地震、津波）とその対応について、しっかりと知り、備え、行動できるようにしておきましょう。

目次

1 災害を知る

- (1) 風水害って何？…………… 1
- (2) 地震って何？…………… 2
- (3) 津波って何？…………… 3
- (4) 引き波って何？…………… 3
- (5) 「避難所」や「避難場所」って何？…………… 4
- (6) 津波避難ビルって何？…………… 4

2 災害に備える

- (1) 風水害に備える…………… 6
- (2) 地震に備える…………… 7
- (3) 津波に備える…………… 10
- (4) 日ごろから備える…………… 11

3 行動する

- (1) 地域の防災活動への参加…………… 16
- (2) 避難に役立つ防災情報…………… 17
- (3) 緊急連絡先…………… 19
- (4) 安否確認方法…………… 19
- (5) 災害時に役立つアプリ…………… 20

1 災害を知る

(1) 風水害って何？

風水害とは、とても強い風やたくさんの雨によって起きる災害のことです。強い風や大雨が起きるのは次のようなときです。

◆台風

- 雨と風がとても強い熱帯低気圧です。
- 沖縄には毎年夏から秋にたくさん来ます。
- 大きな台風では、風で家が壊れたり、家の中に水が入ってきたりして、とても危険です。
- 特に、ドアの開け閉めには気を付けましょう。



◆高波

- 被害をもたらすような高い波です。
- 台風や低気圧が近づくと、波が高くなります。
- 特に台風の接近や通過時に、海に近づくととても危険です。



◆高潮

- 気圧が低くなると海面が上昇し、波がとても高くなります。
- 海の近くにいると波にさらわれるなど、とても危険ですので海から離れて下さい。



(2) 地震って何？

地震とは、地面が激しく揺れることです。

大きな地震では建物が壊れたりするので、とても危険です。また、最初の揺れの後に何度も「地震（余震）」が続きます。

2011年3月11日に起きた東日本大震災や2016年4月16日に起きた熊本地震では震度7を記録するなど、たくさんの被害が発生しました。

日本は地震がとても多い国です。沖縄でも東日本大震災と同じくらい大きな地震が起きる可能性があるといわれています。地震は突然起きるので、いざというときに自分の命を守ることができるよう、家具の固定や避難場所の確認・非常用持ち出し品の確認等日頃から備えて下さい。



津波にのみ込まれる町

写真提供：仙台市



がれきの山と化した街

写真提供：仙台市

(3) 津波って何？

津波は、地震の後に来るとても高い波のことです。普段は波が来ないようなところまで押し寄せ、とても危険です。

一度だけでなく何度も押し寄せるため、警報や注意報が解除されるまで絶対に海に近づいてはいけません。

津波は、普通の波とは力の伝わり方が違い、想像以上に速くて力が大きいです。海の深いところではジェット機並みの速さで、沿岸部でも短距離選手並みのスピードで襲ってきます。また、50cm程度の津波でも人は立っていることができません。すぐに高いところに避難してください。



市街地に流れ込む黒い津波

写真提供：宮古市（岩手県）

(4) 引き波って何？

津波が押し寄せてきた後、沖に向かって勢いよく急速に引いていく波のことです。「引き波」にも、津波と同じように注意が必要です。波が海岸に向かって引いていく際、津波と同じように全ての建物などをのみ込んでしまいます。津波が押し寄せたあとに、引き波が起こりますので、安全が完全に確認されるまでは、高いところに避難し続ける必要があります。



次々と津波にのみ込まれる出崎ふ頭

写真提供：宮古市（岩手県）

(5) 「避難所」や「避難場所」って何？

災害が起きたときや起きそうなときなど、家にいると危ないと感じたら避難する建物です。

住んでいる家が壊れたり、危ないときに、避難する場所で、無料で利用でき、食べ物や毛布がもらえたり、トイレが使えます。市内の小学校や中学校の体育館などが避難所や避難場所になります。自分の家の近くの避難所の位置を確認しておいてください。

「避難所」や「避難場所」になるところには、図1や図2のような標示があります。一度、あなたの家の近くの避難所や避難場所に行って、場所を事前に確認しましょう。

オーバーステイをしていたり、税金を滞納していても国籍や在留資格に関係なく、誰でも「避難所」や「避難場所」を利用することができます。

「避難所」と「避難場所」の大きな違いは、「避難場所」は一時的に設けられたスペースであるため、一定期間過ぎると、「避難場所」は閉鎖されてしまいます。避難している方は移動を余儀なくされるため、注意が必要です。



図1：避難所



図2：避難場所

(6) 津波避難ビルって何？

津波が押し寄せたとき、地域住民が一時的に避難するビルで、避難場所の一つです。すぐに避難できる高台が少ない地域に多く存在し、海沿いの公共施設やマンションが津波避難ビルとして指定されています。津波警報が発表されたら、海や川の近くに住んでいる人は、すぐに津波避難ビルの屋上に逃げてください。津波避難ビルには図3のような表示があります。



那覇市津波避難ビル（那覇市松山 2-22-1）



図3：津波避難ビル

◆避難するときに気を付けること

- 警報や特別警報が出たときに避難所ができます。避難所ができるときは、各市町村の防災メールやOIHFのフェイスブックでお知らせします。
- 避難所には、最低限の設備しかありません。食べ物の準備等にも2~3日かかるので、その間は自分で生活できるよう準備しておいて下さい。
- 避難所へは、歩いて行きます。車は使用しないで下さい。
- 避難所では、大勢の人と一緒に生活します。プライバシーの確保が難しくなり、不自由な事がたくさんあります。みんなが同じようにととてもつらいので、お互いを思いやり、避難所のルールを守って、みんな協力して下さい。
- 避難所の受付で、必要なことを書いて下さい。自分が生きていることや自分の居場所を家族や知り合いに知らせるとき、救援物資をもらうときに役立ちます。
- 災害時には電気や水、ガスなどのライフラインが使えなくなることがあります。

◆避難(場)所のルール

- 食べ物の量や回数を守る
- トイレの使い方やゴミの捨て方を守る
- たばこを吸う場所を守る
- 大声を出さないなど周囲の人に迷惑にならないようエチケットを守る
- 多くの人と、長い間生活することになるので、他の人と協力しながら行動する
- 順番を守る



避難場所の様子（熊本県益城町）

2 災害に備える

災害が起きたときに、自分の体を守り、すぐに避難行動がとれるように、日頃から備えておくことが大切です。会社や学校、近所の人や自治会など、周りの人とつながりを持っていることが、とても大きな備えになります。

(1) 風水害に備える

天気が悪くなってきたら、テレビやラジオ等の気象情報に注意し、正確な情報を収集してください。特に、海や川、山などの近くに住む人は、高潮や洪水、土砂災害が家の近くで起きる可能性があります。市役所からの避難の呼びかけや防災メール等のお知らせが届かなくても、自分で危ないと感じたときは、すぐに避難してください。

◆風水害のときに気を付けること









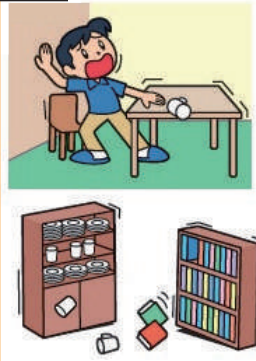



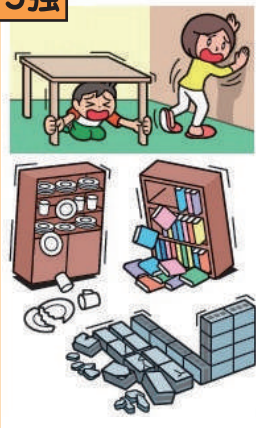
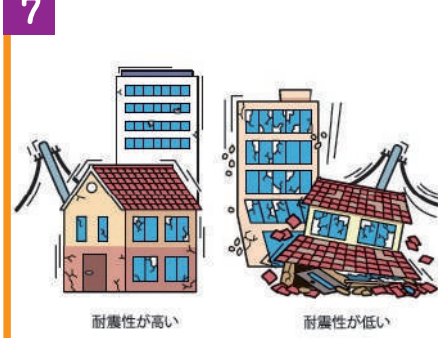


- エリアメール、テレビやラジオ、役所の情報に注意してください。
- 雨や風が強いときは、避難するとき以外はなるべく外に出ないでください。
- 強風で窓ガラスが割れる危険があります。風が強いときは、窓やカーテンを閉めて窓から離れてください。
- 特に、ドアの開け閉めは十分気を付けて下さい。
- 家の中に水が入ってくる前に2階に上がるなど、なるべく高いところに避難してください。
- 歩くことができる水の深さは、成人男性で70cm以下、成人女性で50cm以下です。水が流れているときは、もっと浅くないと歩けません。
- 車に乗っているときは、地下道などの水がたまる場所を避けて、スピードを落として高いところへ向かってください。



(2) 地震に備える

地震が起きたときの状況によって、注意する点が違います。どこで地震が起きても、安全に避難できるように備えておいてください。また、地震による揺れが発生する数秒～数十秒前にテレビやラジオ、モバイル端末などで知らせてくれる緊急地震速報にも気を付け地震が起きたときに自分の身を守れるようにしましょう。

◆地震による震度とゆれについて

<p>0</p>  <p>震度0 人は揺れを感じない</p>	<p>1</p>  <p>震度1 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる</p>	<p>2</p>  <p>震度2 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる</p>	<p>3</p>  <p>震度3 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる</p>
<p>4</p>  <p>震度4</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。 	<p>6弱</p>  <p>震度6弱</p> <ul style="list-style-type: none"> ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="718 974 877 1142">  <p>耐震性が高い</p> </div> <div data-bbox="909 974 1101 1142">  <p>耐震性が低い</p> </div> </div>		
<p>5弱</p>  <p>震度5弱</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が恐怖を覚え、物につかまると感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 	<p>6強</p>  <p>震度6強</p> <ul style="list-style-type: none"> ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="718 1400 877 1568">  <p>耐震性が高い</p> </div> <div data-bbox="909 1400 1101 1568">  <p>耐震性が低い</p> </div> </div>		
<p>5強</p>  <p>震度5強</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物につかまらなると歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。 	<p>7</p>  <p>震度7</p> <ul style="list-style-type: none"> ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。 ●熊本地震、東日本大震災などが該当する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="718 1691 877 1948">  <p>耐震性が高い</p> </div> <div data-bbox="909 1691 1101 1948">  <p>耐震性が低い</p> </div> </div>		

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kaikyuhyo/kaikyuhyo_a2.png)

◆緊急地震速報

地震の発生直後に、各地域での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報でテレビやモバイル端末等を通して日本語で情報提供されます。

◆Jアラート

時間的余裕がない大規模な地震などの自然災害や弾道ミサイル攻撃等についての情報が携帯電話などを通して瞬時に日本語で提供されます。「緊急地震速報」等が発信された際は、落ち着いた行動を取りましょう。

◆屋内にいるとき

●自分の身体を守る

棚が倒れたり、物が落ちてきたりします。テーブルなど頑丈なものの下で、身体の安全を確保してください。



●火災などに注意

火元には近づかないでください。ガスは震度5相当を感知すると自動的に止まるので、あわてて火を消しに行かないでください。地震の揺れが収まってからガスの元栓を閉めてください。



●出口を確保

ドアや窓を開けて、逃げるための出口を必ず作ってください。地震でドアや窓が変形すると開かなくなる可能性があります。



●あわてて逃げない

屋内の方が安全な場合もあるので、状況によっては屋内に留まってください。ただし、津波が来そうなときは、すぐに逃げてください。外に逃げるときは、外をよく確認して逃げてください。外は、がれきやガラスの破片等が落ちているので、必ず靴を履いて逃げてください。



●エレベーターは使わない

エレベーターに乗っているときに地震が起きた場合は、ボタンを全部押して一番近い階で降りてください。エレベーターが緊急停止したときは、すぐに降りて下さい。ドアが開かないときは、緊急連絡ボタンを押し、救助を待ってください。



◆屋外にいるとき

●建物の外にいるとき

建物から窓ガラスや看板などが落ちてくる危険があります。手や持ち物などで頭を守ってください。また、壁や自動販売機が倒れることもあるので広い場所に逃げてください。



●自動車を運転しているとき

あわてて急に止まらない。少しずつスピードを落とし、道路の左側に止めて、エンジンを切ってください。車を離れるときは、キーを付けたまま、車検証などの貴重品を持って逃げてください。



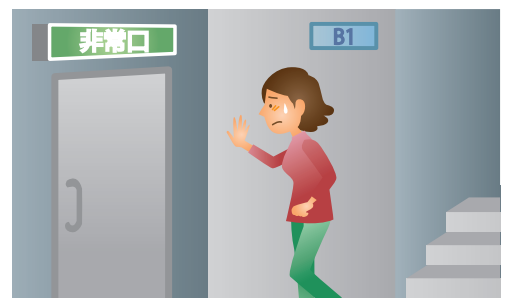
●バスや電車などの乗り物にいるとき

つり革や手すりにしっかりつかまってください。勝手に車の外に出ず、係員の指示に従ってください。



●地下にいるとき

誘導灯や避難誘導者の指示に従って、壁伝いに逃げてください。



●人が大勢いる施設にいるとき

あわてて出口に走りださずに係員の指示に従って逃げてください。



(3) 津波に備える

沖縄県は大小 160 の島から成り、周りは全て海に囲まれています。沿岸部では、海拔の低いところにも人家やホテル、商業施設などが建っています。ですから、常に津波には備えておかなければいけません。1771年の明和の大津波では、石垣島を 30m もの高さの津波が襲いました。1960 年には、太平洋を隔てたチリ地震の津波が、沖縄まで押し寄せたという記録があります。

津波警報が出たら、まずは安全で高いところに急いで避難してください。逃げ遅れたときや、遠くまで避難することが難しいときは、津波避難ビルなど高いところへ避難してください。津波避難ビルには図のような看板が付いています。

また、日頃から住んでいる場所や勤め先、学校などの高さを確認しておきましょう。高さは、電柱や建物の入口などにある図のような看板で確認できます。



要チェック！

自分の家、職場、よく行く場所の津波想定を確認しましょう

自宅の標高は、_____m (津波が起きたら_____へ避難)

会社の標高は、_____m (津波が起きたら_____へ避難)

_____の標高は、_____m (津波が起きたら_____へ避難)

_____の標高は、_____m (津波が起きたら_____へ避難)

(4) 日ごろから備える

災害はいつ起きるかわかりません。平時に非常用持ち出し品を準備し、避難場所、避難経路、避難後の家族との連絡方法を事前に確認しましょう。また地震が起きたとき、家の中や避難経路の中でどこが危険なのかも併せて確認し、災害に備えてください。

◆家の安全対策について

- 背の高い家具（タンス、冷蔵庫、本棚等）は転倒防止金具で固定する
- テレビはできるだけ低い位置に置く
- 家具の上に物を置かない
- 玄関や出入り口までの通路に、倒れやすい家具などを置かない
- ベッドの周りに倒れやすく大きな家具を置かない
- ガラスに飛散防止フィルムを貼る
- 家の中で一番安全な場所を確認しておく



◆事前に避難所 / 避難場所の確認を！

家の近くの避難所や避難場所を調べて、いつでもすぐに、避難できるように備えておいてください。避難所や避難場所は、お住まいの自治体のホームページなどで調べてください。また、災害時に避難する場所は、普段から家族で話し合い、事前に確認しましょう。

◆避難所 / 避難場所での感染症に備える

多くの人が集まる避難所や避難場所などでは、ノロウイルスや新型コロナウイルスなどの人から人へ感染する感染症対策を心がける必要があります。

●避難所 / 避難場所に行く前に

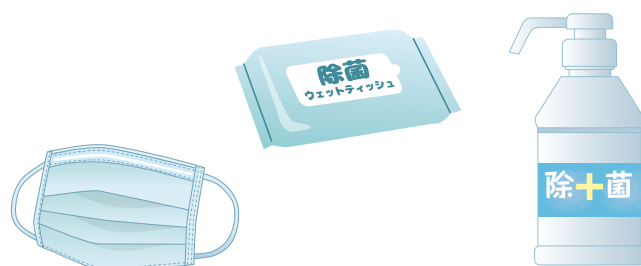
- 自分や家族の体調チェック

感染症拡大を未然に防ぐことが一番大切なこととなります。もしも吐き気や発熱、倦怠感など体調に異変がある場合、一時的に「ホテル」「在宅避難」「車中泊」などの分散避難を検討することも大切になります。



●避難所 / 避難場所に持っていくもの

- マスク
- 消毒液や除菌スプレー
- 体温計

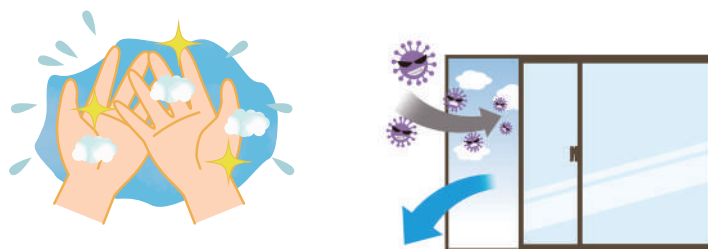


マスクを持っていない場合、鼻や口を覆える大きなタオルや手ぬぐいを代わりに使うことができます。消毒液がない場合に備えて、ウェットティッシュも準備しておくといいでしょう。これらの持ち物は、日頃から準備しておきましょう。

●避難所 / 避難場所での生活

- 換気と手洗い消毒の徹底
- ソーシャルディスタンス（他の人と2メートル程度の距離）の確保
- 密接した上での会話はさけ、食事での会話は控える。

食事の前後やトイレ後には必ず手洗いや手指の消毒を徹底しましょう。ソーシャルディスタンスの確保が難しい場合、「背を向けて座る」ことや「段ボールで間仕切り」を作ることでも有効です。



◆非常用の持ち出し品

災害が起きてから助けが来るまでは、自分の力で生き延びなくてはなりません。そのために、避難するときに持ち出す必要最低限の備えを、日頃から家族で確認し、準備しておいてください。非常用の持ち出し品は、持ち出しやすい場所においてください。また、賞味期限が切れている物や、足りないものがないか、定期的にチェックし、古いものは新しいものに交換してください。

●基本品目

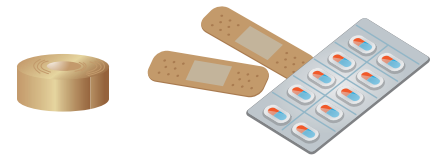
【食料関係】

- 非常食（缶詰・乾パン・アルファ米など）
- 飲料水（一日あたり 500ml×6 本）



【救急用品】

- 救急袋
（毛抜き、消毒液、脱脂綿、ガーゼ、ばんそうこう、包帯、三角巾、マスク等）
- 常備薬

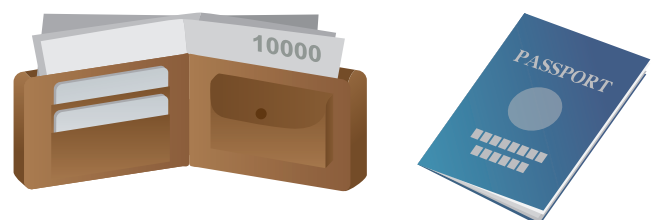


【生活用品】

- | | | |
|--|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> ろうそく・ライター | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ |
| <input type="checkbox"/> 万能はさみ | <input type="checkbox"/> 軍手・手袋 | <input type="checkbox"/> ロープ |
| <input type="checkbox"/> ガムテープ | <input type="checkbox"/> タオル | <input type="checkbox"/> ポリ袋 |
| <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ | <input type="checkbox"/> トイレットペーパー | <input type="checkbox"/> レジャーシート |
| <input type="checkbox"/> ブランケット | <input type="checkbox"/> 簡易トイレ | <input type="checkbox"/> 乳幼児用品（粉ミルクなど） |
| <input type="checkbox"/> その他自分で必要だとおもうもの（コンタクトレンズ・いれば・カイロなど） | | |

【その他】

- 現金（小銭含む）
- 通帳・キャッシュカード
- パスポート
- 在留カード
- 筆記用具・油性マジック
- その他自分で必要だと思う物



◆オンライン避難者登録フォーム

大規模災害時に、OIHが立ち上げ運営する「災害時多言語支援センター」が、外国人被災者の情報を集約し、在住外国人の「生活再建」や外国人観光客の「帰国支援」に繋がられるよう、英語・中国語（簡体・繁体）・韓国語・スペイン語・ネパール語・ベトナム語の7言語で「オンライン避難者登録フォーム」を開発しました。OIH職員や災害時外国人支援サポーターが避難所を巡回し、困っている外国人の皆さんへの聞き取りを通して状況を把握し、被災した外国人が次のアクションへ移行できるよう支援します。

オンライン避難者登録フォーム Online Evacuee Registrtion Form

英語 English 中国語 簡体字・繁体字/Chinese 韓国・朝鮮語 한국・조선어/Korean		スペイン語 Español/Spanish ベトナム語 Tiếng Việt/Vietnamese ネパール語 नेपाली/Nepali	
--	---	--	--

フォームがどのようなものか、事前に確認しておきましょう



災害時外国人支援サポーター

フォーム帳票サンプル

在住外国人の例

登録日時: 2020/08/25 10:20:07

氏名 Santos Dean 性別 男 年齢 20 国籍 Brazil

ID 81 管理番号 81-001 代表者 A 本人 Reporter-ID/記入者 0-005 市町村 北谷町

避難場所 桑江中学校体育館 避難者区分 県内在住外国人 母国語 Portuguese 日本語力 x

日本でのご住所 1-2-1 Mihama Cahatan A. 帰国支援（外国人観光客）/生活支援（在住外国人）の確認
C. 被災者の情報を連絡希望者に提供 B. 市町村別/避難所国籍別の情報把握・関係機関へ情報提供

連絡希望者情報 My brother, Ali

TEL 080-1111-1111 D. 必要に応じて災害・生活情報を多言語提供 Eメール s-dean@gmail.co.jp

在留カード番号 ZB66231RD E. 生活再建に向けた支援策の援助に活用 F. 主訴に応じて対象機関（この場合医療機関）に！
宗教や健康上での配慮 My leg was broken

ケガや病気 欠ガ C. 被災者の情報を連絡希望者に提供

妊娠や持病

アレルギー 魚 D. 必要に応じて災害・生活情報を多言語提供

特別な配慮 My visa has been expired. don't wanna be deported E. 生活再建に向けた支援策の援助に活用
F. 主訴に応じて対象機関（この場合医療機関）に！

H. 行政機関等への情報提供の同意 x 大使館・領事館への情報提供の同意 x

登録日時: 2020/08/25 10:39:46

G. 特別な主訴に配慮し、関係機関（この場合、入管）とともに相談者にとってベストな対応を模索
H. xの場合、関係機関に個人情報の提供はしないが、被災者数としてカウントをして情報提供

要支援者の言語や国籍だけでなくケガの有無などが、一目でわかるようになっています。

◆災害時に使える多言語表現例

（一財）自治体国際化協会（CLAIR）では、災害時に使える「災害時多言語表示シート」や「災害時用ピクトグラム」などを日本語含め、15言語でまとめています。避難所運営等で活用できる表現集ですので、平常から活用できるよう準備することをお勧めします（下記のリンクを参照ください）。

dis.clair.or.jp



3 行動する

(1) 地域の防災活動への参加

大きな災害が起きたときは、火災や道路の寸断など、様々な被害が広い範囲で発生します。被害を少なくするために、地区に住んでいる人たちが、初期消火、救出、救護、避難所誘導などの活動に取り組み、お互いに協力しあうことが必要です。

住んでいる所の自主防災組織が行う防災訓練に参加するなど、地域の活動に、積極的に参加して下さい。日頃から近所の人たちとコミュニケーションを図り、日常生活でも災害が起きたときでも、共に支え合えるように心がけて下さい。

まずは、近所の人たちと防災の事について話をしたり、自治会が行う防災訓練等の活動に参加しましょう。



やさしい日本語講座の様子



応急救護訓練の様子

●災害時外国人支援サポーター養成講座

OIHFでは、災害時に外国人被災者へ多言語による支援を行う「災害時外国人支援サポーター」の養成を行っています。災害発生後、安全が確認された状況を前提に避難所巡回にあたり被災している外国人の情報収集や、得られた情報の多言語化による支援を行います。

●避難所運営訓練 / 避難所体験会

大規模災害が発生すると、自治体職員も被災してしまい一時的に行政能力が低下することが予想されます。また、災害発生の初期においては、交通や通信の手段が途絶えて混乱し、行政が即座に地域に入って対応できなくなることも考えられます。そのようなときには、避難所にいる人たちだけで、しばらくの間生活をしながらはけません。避難所運営訓練は、性別、年齢、国籍、宗教などの違う地域住民同士が協同して避難所を運営していくための基礎知識を養成することを目的として実施します。また避難所に関連する様々なイベントを体験することができる「避難所体験会」を同時開催し、避難所に慣れ親しみます。



HUG（避難所運営ゲーム）の様子



避難所運営訓練の様子

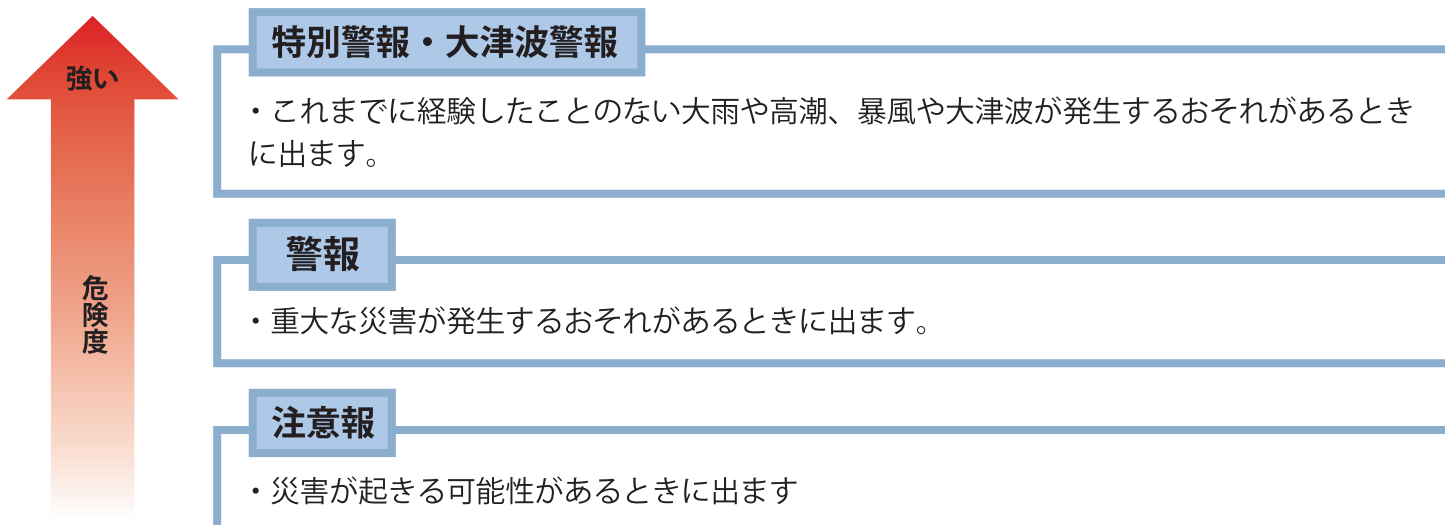
(2) 避難に役立つ防災情報

自然災害が発生し、危険なときは、市役所や消防・警察から避難勧告・避難指示（緊急）が出ます。テレビやラジオなどで正しい情報を聞いて避難してください。また、避難勧告・指示がなくても「地震で家が壊れそう」「火事が近くまで来ている」など、危ないと感じたときも避難するなどすぐに行動してください。

◆注意報と警報について

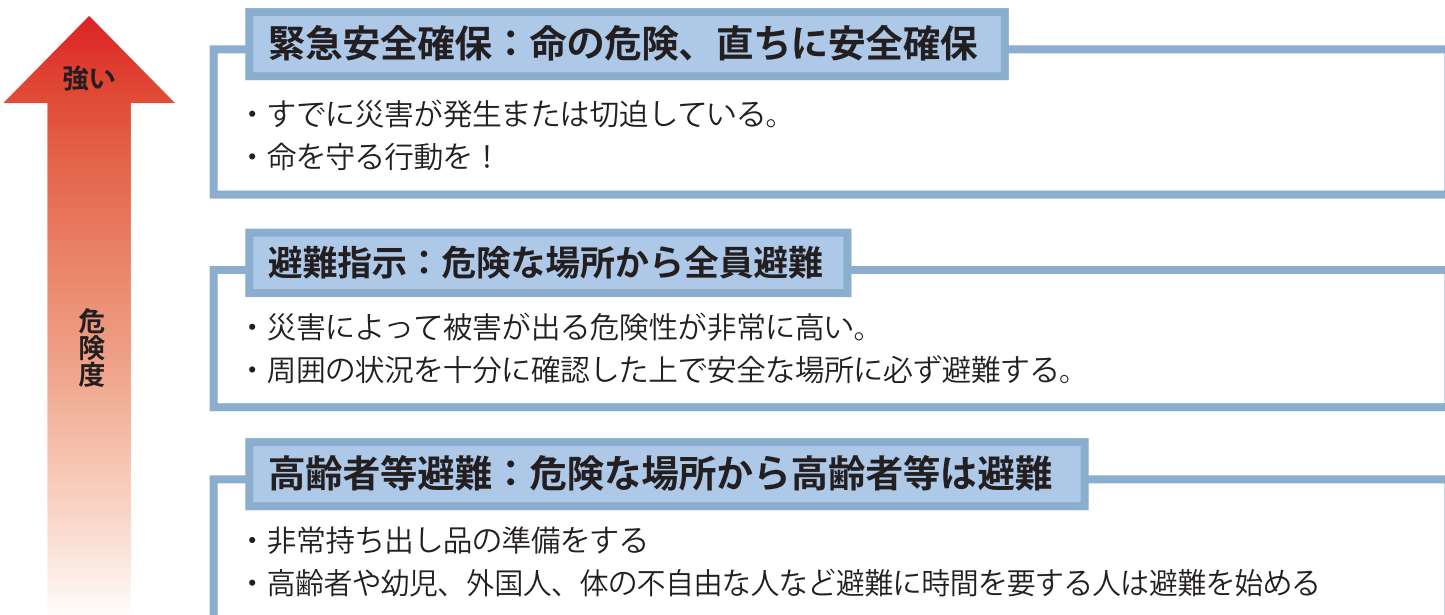
災害が起きるおそれがあるときは、危険度に応じて、次のような注意報や警報が気象庁から発表されます。状況は変わりやすいので、常に最新の情報に注意してください。

注意報・警報の例：大雨、洪水、暴風、津波、波浪、高潮 など危険度の例：
大雨注意報 < 大雨警報 < 大雨特別警報



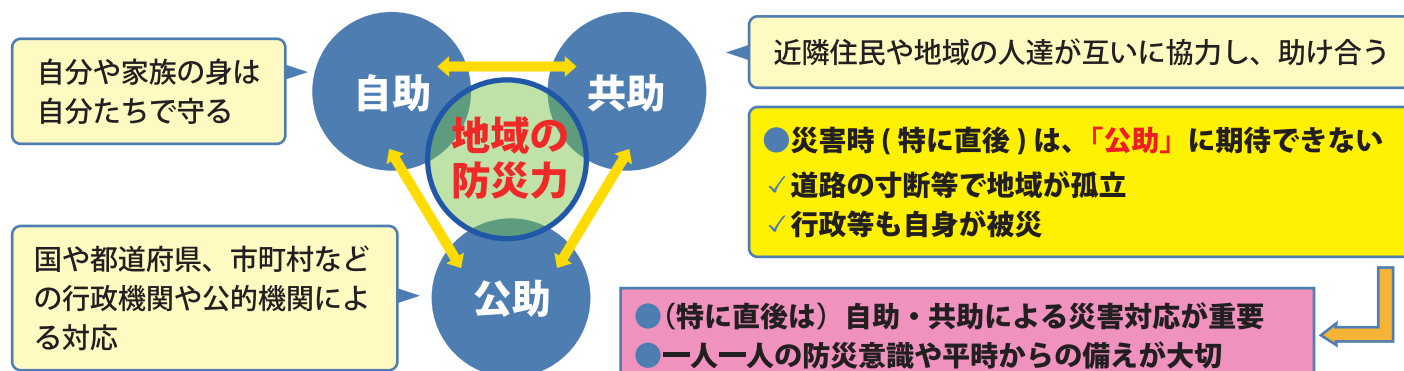
◆避難情報について

災害発生のおそれがあり、避難が必要な場合、次の避難情報を災害の危険度に応じて発令します。避難情報は、防災スピーカーや携帯メール、インターネット、テレビ、ラジオなどを通して皆さんにお伝えします。それぞれの情報にあった行動をしましょう。なお、防災スピーカーは、住んでいる場所によっては聞こえにくい、または聞こえないので、その他の媒体でこまめに災害情報をチェックしましょう。



◆自助・共助・公助

地域の防災力=自助×共助×公助



◆自助・共助・公助 多言語による情報提供

●多言語版防災気象情報（気象庁）

気象庁ホームページの防災気象情報を多言語でチェックすることができます。



●沖縄防災情報ポータル「ハイサイ！防災で一びる」(www.bousai.okinawa.jp)

沖縄県が出す緊急情報や災害が起きたときに必要となるいろいろな情報がたくさんあるサイトです。日本語のほか、英語、中国語、韓国・朝鮮語に対応しています。また、携帯のメールアドレスを登録すると、いろいろな防災情報がメールで配信されます。



●OIHFのHP/FBによる情報提供

災害時に、OIHFにより立ち上げられる「多言語支援センター」へ寄せられる情報を日本語・英語・中国語（簡体字/繁体字）・韓国語・スペイン語・ネパール語・ベトナム語・やさしい日本語の8言語を中心に OIHF ホームページ・フェイスブックに掲載します。
(HP: <https://kokusai.oihf.or.jp>) (FB: <https://www.facebook.com/oihf60>)



●(一財)自治体国際化協会(CLAIR)による多言語生活情報アプリ

(一財)自治体国際化協会が発信している「多言語生活情報アプリ」では、災害時や日常生活に必要な知識等が多言語にまとめられていて、スマートフォンからでも閲覧することができます。



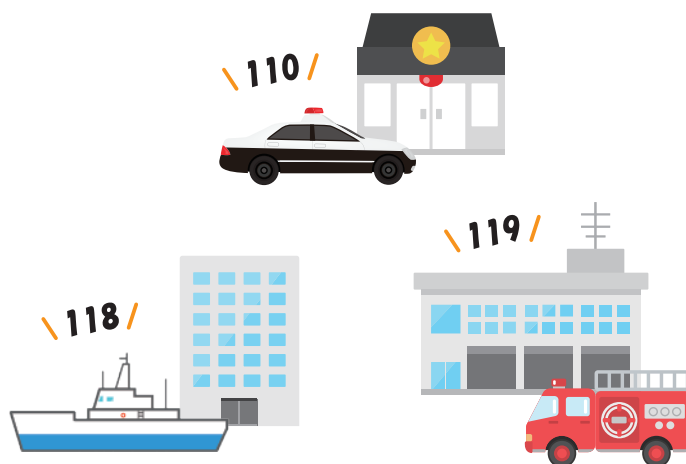
●外国人旅行者向けプッシュ型情報発信アプリ“Safety tips”

観光庁が発信している外国人旅行者向けプッシュ型情報発信アプリ“Safety tips”は、外国人が自然災害（地震・津波・水害・噴火等）に関する正確な情報を収集できるよう4言語（日・英・中（簡・繁）・韓）で発信しています。



(3) 緊急連絡先

警察署	110 (原則、日本語対応のみ)
消防署	119 (原則、日本語対応のみ)
海上保安庁	118 (原則、日本語対応のみ)



(4) 安否確認方法

●災害時伝言ダイヤル「171」

災害時に、固定電話、スマートフォン等の電話番号宛に安否情報（伝言）を音声で録音（登録）し、全国からその音声を再生（確認）することができます。

【利用方法】

1. 「171」をダイヤルします。
2. ガイダンスに従って、録音の場合は「1」を、再生の場合は「2」をダイヤルします。
(暗証番号を付けて録音・再生を行うこともできます。)
3. ガイダンスに従って、連絡をとりたい方の電話番号をダイヤルします。
(03等の市外局番で始まる電話番号の場合、市外局番からダイヤルします。)
4. 伝言を録音・再生することができます。



●災害伝言板

携帯電話等のインターネット接続機能で、被災地の方が伝言を文字によって登録し、携帯電話をもとにして全国から伝言を確認できます。(スマートフォンでのご利用については、各社のページでご確認下さい。)

【利用方法】

1. 携帯電話から災害用伝言板にアクセスします。
(災害時は各社の公式サイトトップ画面に災害用伝言板の案内が表示されます。体験利用の際はメニューリスト内からアクセスしてください。)
2. 「災害用伝言板」の中の「登録」を選択します。
(登録は被災地域内の携帯電話からのアクセスのみが可能です。)
3. 現在の状態について「無事です。」等の選択肢から選び、任意で100文字以内のコメントを入力します。(状態の複数選択や、コメントのみの利用も可能です。)
4. 最後に「登録」を押して、伝言板への登録が完了となります。

【確認方法】

1. 災害用伝言板にアクセスします。
(伝言の確認は PC 等からも行うことができます。)

 - ・NTT ドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
 - ・KDDI (au) <http://dengon.ezweb.ne.jp/>
 - ・ソフトバンク <http://dengon.softbank.ne.jp/>
 - ・Y!mobile <http://dengon.ymobile.jp/info/>

2. 「災害用伝言板」の中の「確認」を選択します。
(確認は全国からのアクセスが可能です。)
3. 安否を確認したい方の携帯電話番号を入力し「検索」を押します。
4. 伝言一覧が表示されますので、詳細を確認したい伝言を選択してください。



NTT ドコモ



KDDI (au)



ソフトバンク



Y!mobile

●災害用伝言板 171web

パソコンやスマートフォン等から固定電話や携帯電話の電話番号を入力して安否情報（伝言）の登録、確認を行うことができます。



【利用方法】

1. URL:<https://www.web171.jp/> へアクセスします。
2. 連絡をとりたい方の固定電話番号や携帯電話番号を入力します。
3. 伝言を登録・確認することができます。(事前に設定することで閲覧者を限定することもできます。文字（テキスト） 1 伝言あたり全角 100 文字までです。)

●安否情報まとめて検索「J-anpi」

「電話番号」または「氏名」を URL:<http://anpi.jp/top> に入力し、各社の災害用伝言板、報道機関、企業・団体が提供する安否情報を一括検索できる。日本語と英語のみの対応となります。



(5) 災害時に役立つアプリ

●NHK による災害情報



NHK world TVは、iOS または Android OS を搭載するスマートフォンとタブレットに対応しており、移動中でも、テレビやラジオがない場所でも、対応端末があれば多言語でライブ放送により情報を得ることができます。

●ゆれくる、Yahoo 防災速報、NHK ニュース防災



地震発生時に安全、安心をいち早く入手



地震、雨雲レーダー、警報、避難勧告などのニュース速報



最新ニュースや災害情報をいち早く入手



外国人住民のための防災ハンドブック

2021年 更新

編集・発行

公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団（OIHF）

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4丁目2番16号

Phone: 098-942-9215 (直通)

E-mail : kokusai@oihf.or.jp

HP : <https://kokusai.oihf.or.jp/>

Facebook : <https://www.facebook.com/oihf60>

資料協力

気象庁沖縄气象台

